

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

循環

早番で出勤し、閉店作業に2度目の出勤をするという体制が確立されて3ヶ月ほどが経過しており、私が休みの場合は店長が変わりに設定の打ち込みや、売り上げの計算をしてくれていた。班長3人には店長から店の鍵が渡されたため、完全な休みも定期的に取れるようになり、少し前のことを考えると、気持ち的にも身体的にも、充実度は上がっていた。

しかし、この体制は長く続くことなく終焉を迎えることとなった。U班長が辞めると言い出したのだ。嫌な仕事も自ら進んでするような行動派で、知識や技術を身につけるのにも熱心だった成長株だ。嫌われるようなタイプではなかったし、班長3人組もそれぞれが切磋琢磨しあい、仲も良かったように思う。はたして原因はどこにあったのだろうか？本人に確認してみた。

私 「辞める理由は？」

U 「店長と馬が合いません。だってあの人がおかしいですよ…(暴言など多数のため略)」

私 「言っていることはよく分かる。今はもう少し我慢しなさい。副主任になれば少しは話になるだろうから」

U 「では、毎回店長のいない早番にしてください。」

私 「それは聞けぬ相談だ。3人の班長は平等でなければいけない。他の2

人がそれでいいと言ったとしても、そうするつもりはない」

U 「なぜみんなが賛成してもダメなんですか？主任は従業員のための快適な職場作りを目指しているのではないのですか？」

私 「みんなは賛成していない。俺が反対しているからだ。みんなが『今日はホールをセルフサービスにしよう！』と言ったらどうか？確かにみんなは楽チンだ。しかしそれがダメなことぐらいい前にも分かるだろう。そういうことだよ」

U 「そうですか、しかしやはりもう我慢できません。辞めさせて頂きます」

私 「そうか、残念だが仕方がない。店長には俺から話しておこう」

U班長の引退で最も困るのは私である。それでも譲れないところは譲れないし、甘やかしたくない。今後の統制を考へても、間違ったことを言っただとは思えない。それと同時に今まで散々、店長の真意がよく分からない」といつてきた理由がここにある。本当に自分本位の性格で好き勝手言っているのか、それとも他に意図があるのか。従業員のほとんどは自分勝手に自分本位と思っているようだが、本当にそうなのだろうか？私にはまだよく分からないし、その分からない部分があるからこそ、この従業員でいられるというのもある。その微妙な期待が私を支えているのだ。

連鎖

それから暫く後のある日、早番が終了し閉店前までの数時間、私はいつものように近くのパチンコ店で時間を潰していた。すると間もなくして携帯に着信が入った。画面には店長という文字が表示されていた。いままで店長からの電話に朗報は一度もないことを加味すると、今回も例外ではないだろう。いろんな嫌なことを想像しながら電話に出る。

店長「Hがまだ来ない。経験上もう来ることはないだろう。すぐに店に戻ってくれ」

私 「わかりました」

U班長が辞めて1ヶ月も経過していない。これが偶然なのか、なんなのか分からないが、そんなことよりも脳裏には再び嫌なシフトが出来上がっていた。店に入ると事務所には店長がおられ、会話をかわす。

店長「お前からも電話してみてくれ。お前からなら出るかもしれん」

私 「来る途中に数回電話してみました。出てくれませんでした」

店長「そうか、多少俺もHには期待していたが、結局はこの程度のヤツだったか」

私「とりあえず今後のことをK班長と相談します」

K班長を事務所に呼び出し、H班長のことを伝えた。いつもひょうひょうとしているK班長は驚く様子もなく、ただ黙っていた。

私 「安心してくれ、お前の休みをなくすなんてことはしない。これからのシフトは、早番に責任者として私が常駐し、遅番をお前に。お前が休む場合は開店から閉店まで私が担当する。私の休みは新しい班長の誕生まではお預けとなる。だからさっさと班長を育成してくれ。そのことをよろしく頼む」

K 「はい…」

いつもの気のない返事である。仕事は出来るがカリスマ性に欠ける。従業員に小ばかにされながらも着実に業務をこなすが、部下や上司に意見をするこ

犯人

どありえない。正直頼りないといえる。こういった感じのK班長に、新たな班長を作り出す能力は存在するのだろうか？。はつきりいつて無理である。そして期待などしていない。ではなぜこのようなことをK班長につげたのか、それは言うまでもなく、「店長に聞かせるため」である。いつもならホールか休憩室で伝えるが、わざわざ事務所に呼び出したのもこのためで、この一連の出来事がいかに私への負担になるのかということを、多少でも理解してもらおうと思ったのだ。

H班長が辞めてから1週間ほどが経過したとある日、私はいつもの様に閉店時に再出勤し、設定を打ち込んでいた。そこで少し不思議なことがあった。昨日設定6にした北斗の拳の設定を下げようと設定キーを差し込んだときのことだ。確かに昨日は設定6にしたはずなのに、何故か最低設定の1になっていた。設定を打ち込んだあとは必ず確認するから間違えるなどないと思っていたが、どうやら間違えたようだ。反省しながらも連勤からの疲れなどと自分に言い訳をして、その場は特に気にすることはなかった。

数日後、同じ台で同じ現象がおこった。前日は確かに6にした。なのに今日は1になっている。さすがにこれはあり得ないと思い、ふと基盤に目を向ける。じっくり見ないと分からなかったが、確実に開けられている。封印シールには剥

がされた形跡があり、またカシメも開けられている！一大事である。慌てて事務所向かい店長に報告する。

私 「店長！基盤を開けられました！北斗の拳です。とりあえず他の台も確認します」

店長「いつからだ？被害は？」

私 「最低でも10日前です。その時は自分の打ち間違えと思い気にしてませんでした。すみません。しかし被害はないように思われます。この10日間それほど出た日はありません」

店長「とりあえず警察に連絡する」

私 「はい、では警察が来るまで他の台も調べておきます」

全台を調べ終わって数分後、店長からお呼びがかかる。急ぎ事務所向かうと、そこには私服警官が3名いた。そして店長が嬉しそうに私を指差し、次のように発言した。

店長「犯人はコイツです！ひやはは！」

警官たちは一斉に私をジロリと睨み、身構えた。慌てて私も言い返す、

私 「こんな時に冗談はやめて下さい。私ではありませんから。しかし外部の者と言うのも考えにくいですね。営業時間中にある目立つカド台を開けてさらにカシメも壊すなど考えられないし、営業時間外だったとしてもカードでシステムを解除しない限り、防犯システムが作動します。さらにワイヤーロックのワイヤーが切られていないことを考える

と、そのロックの解除方法を知っていなければなりません。ほぼ内部の者の犯行でしょうね。となると、防犯システムを解除するカードを持っているものが一番怪しくなります。私か、辞めた班長を含む3人か、店長です」

店長「あいつだ！Hだ！辞め方もおかしかったな」

店長のこの発言に警察が食いつく。警官「その人物を詳しく教えてくれませんか？」

私 「はい、最近辞めた2人組みのうちの1人で、今まで遅刻も欠勤もなかったのにいきなり連絡が取れなくなつて、来なくなりました。ちなみにもう一人は、きつちり辞めてますが、辞めた時期は重なります。個人的に2人ともそんなことをするような人物とは思えません。ここに2人の履歴書があります。参考にどうぞ」

履歴書を引き出しから取り出し、警官に手渡す。

はたして店長が言うように、犯人はHなのか？しかし何のために基盤を開けたのだろうか、常に設定1になつてしまう基盤など、なんの得もないように思う。ん？そうか、防犯カメラの録画映像を確認すれば…。

次回予告

はたして犯人は誰なのか？そして防犯カメラはその現場を押さえているのか？次回「検証」乞うご期待！

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。